

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-163	15-100	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
Predictors identifying those at increased risk for STDs: a theory-guided review of empirical literature and clinical guidelines. 性感染症リスク因子の解明：系統的レビューおよび診療ガイドライン		
<b>執筆者</b>		
Falasinnu T, Gilbert M, Hottes TS, Gustafson P, Ogilvie G, Shoveller J.		
<b>掲載誌</b>		
Int J STD AIDS. 2015 Oct;26(12):839-51. doi: 10.1177/0956462414555930.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
予測因子、リスク因子、リスク評価、クラミジア、淋病		25324350
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
<p>性感染症（STD）は世界の一大疾患である。本研究では、クラミジアおよび淋病のリスク因子を系統的レビューによりまとめ、現行の診療ガイドラインにおける検査項目との関連を検討した。</p>		
<b>方法：</b>		
<p>OVID Medline よりクラミジアおよび淋病に関する論文（2003-2011）の系統的レビューを行った。9つの基準（研究デザイン、対象者、解析手法、変数、評価等）より各論文を点数化（≤3点“unacceptable”、4-5点“marginal”、6-7点“acceptable”、8-9点“commendable”）し、さらに各リスク因子のSTD関与の点から間接的および直接的の2群に分けた。以上のカテゴリーより、各リスク因子のエビデンスを高度、中度、中低度、低度の4群に分類し、9つの先進国における現行の診療ガイドライン（USPSTF、AAFP、USCDC、ACOG、SOGC、PHAC、IUSTI Europe、BASHH、ASHM）の項目と比較した。</p>		
<b>結果：</b>		
<p>系統的レビューに含めた論文は75本であった。クラミジア、淋病の高度/中度リスク因子は、年齢、民族、複数の性的パートナー、性感染症患者との性的接触、STD現病歴であった。低度のリスク因子は、社会経済的状況、売春、薬物、アルコール、不適切なコンドームの使用およびSTD既往歴であった。9つの診療ガイドラインでは若年、複数の性的パートナーが高頻度、不適切なコンドーム使用が低頻度でみられた。</p>		
<b>結論：</b>		
<p>系統的レビューによるエビデンスとガイドラインの項目はほぼ一致した。STDガイドライン検査項目改善のため、エビデンス構築を継続して行う必要がある。なお、アルコールはクラミジア、淋病の低度リスク因子と考えられた。</p>		